

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE		
所在地	長崎県長崎市宝栄町4番19号		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様方が、日々笑顔で生活できるように心掛け、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔」というホームの理念が職員全体に浸透し、利用者は明るく温かい雰囲気の中でゆったりと過ごしている。「してあげる介護から本人が生きることへの支援」という経営方針の下、職員は支援に努めている。それは、利用者の誕生日会をその都度開いたり、介護度が高い利用者も浴槽に浸かることができる支援にも表れている。新型コロナ禍の中でも、手紙や電話、LINEの活用等、可能な限り家族との関係作りに努めていることが確認できる。管理者は自治会役員や消防団員として地域に貢献すると共に、地域の中で過ごすホームづくりを心掛けている。現在、介護ソフトの導入を検討しており、介護計画と実践の確認、職員による情報の共有化の徹底という面で、更に期待ができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、笑顔 とし、入居者様、ご家族、職員、地域住民が笑顔で生活できるように努めているが、コロナ過で地域住民の方などの交流は少なくなっている。散歩のときの挨拶程度になっている。	当番職員のリードのもと、毎朝全職員で経営理念を復唱している。「今日も一日笑顔でがんばりましょう」という声かけを行って職務に就くなど、日頃から理念の共有・実践に努めている。管理者は自治会役員や消防団員として、地域に根差した事業所運営を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや中学校の職場体験、看護学生の実習体験などを受け入れていたが、コロナでほぼ受け入れが出来ない状況となっている。理美容の方の受け入れは様子を見ながら継続している。	現在、職員と利用者は散歩時に住民と挨拶を交わしている。新型コロナ禍以前は、自治会の夏祭り・子供向けキャンプにホームとして参加していた。また、中学生の職場体験や夏休みボランティア活動を受け入れ、地域に開かれた事業所として活動を行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方のホームへの受け入れが出来ておらず、実際に話をすることがほぼ出来ませんでしたが、運営推進会議を書面での開催としているので、書面でのホームの出来事などお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での開催となっており、電話での情報交換や、現在の状況での職員への激励等も頂いている。現状でのサービスの取り組み方も、ご家族の方から、入居者様が喜ばれる様に助言等も頂けており、サービスの向上に活かしている。	コロナ蔓延防止のため書面で会議を行っている。家族、行政、民生委員、老人会長に議事録を送付し、送られてきた意見を報告書にまとめている。報告書には家族との質疑応答の内容を記しており、対面できない制約の中でサービス向上に向けた取組が見てとれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組みに対しての判断がつかなかったり、疑問があった時には連絡をとっており、特にコロナのワクチンなどのやり取りが増えているが、頻繁ではない。	行政担当者とワクチン実施の報告やその他報告書の提出等連絡を取り合っている。入居に関する相談では包括支援センターとのやりとりがある。また、利用者に関して担当職員と打ち合わせしている他、一昨年は、介護相談員を受け入れて、利用者の話を傾聴した内容の報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯の防犯のための施錠とし、基本1・2階の行き来も自由に出来るようにしている。	「身体拘束ゼロのための指針」のもと、職員全員が適正化対策委員として身体拘束をしないケアへの意識を育てている。職員はチェックリストで自身のケア実践を見直し、3ヶ月に1度実施する研修を受講している。現在、日中の施錠はなく、利用者への拘束の事例も無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待発生防止の為、職員がお互いにチェックし管理しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度は現在も利用されている方もおり、その必要性がある場合は活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、十分に話し合いをし、契約時には互いに理解、納得できるよう話し合っておらの契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いているが、ほとんどのご家族の方は直接来られた時にご意見などを尋ねている。また、電話で、ご利用者様の状況説明の時なども、ご意見や要望をお尋ねしたりしている。	新型コロナ禍の現在、家族とは電話で連絡を取り合い、利用者の様子を伝え、要望を聞き取る努力を行っている。プリンや乳酸菌飲料を提供してほしいという希望に対応している。利用者との会話の際には耳元で話し掛けたり、筆談等を用いて気持ちを汲み取っている。コロナ禍であっても利用者の買い物や墓参りの希望を叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者等が常時受け付けており、運営に反映している。	職員は、日頃から管理者に意見や要望を伝えており、トイレでの介助がしやすいようにリフォームした事例がある。会議では、管理者は敢えて出席せずに職員の意見が出やすいよう工夫していることがわかる。管理者は、年に1回の職員面談の他、職員が作成するチェックリストで気になる際は、個別に聞き取り指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の状況を把握し、又管理者は職員の個々の状況を把握し、代表者への状況報告を行い、向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は職員実力を把握し、色々な資格取得を目指しながら勤務できる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過で交流自体は少なくなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より家族への聞き取りや、本人面談時に聞き取りを行い、入所されたばかりの方は、積極的に職員が寄り添い、少しでも不安や混乱を軽減し、職員、他入居者様との関係が出来るよう支援し、安心して笑顔で過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より家族の方の聞き取りを行っており、困っていることや不安な事の解消が出来るように要望を尋ねている。管理者、職員共に関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の意見を大切にし、必要と入れている支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の能力や性格をみながら、家庭でも行われている家事全般で、出来る事はお手伝い頂いたり、職員と一緒に取り組んだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の問題が起こったり、大きな変化があった場合は、家族への連絡を行いご意見などを伺い共に支援させて頂いている。問題がないばあいでも、日常生活の報告をし、ともに共感し、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医に受診又は往診して頂いたりしている。美容室なども行きつけに行かれたりしていたが、現在はコロナが落ち着くまでは控えて頂いている。	新型コロナ禍の現在は、家族は窓越しにて面会している。利用者は、携帯電話で家族と会話したり、LINEのテレビ電話を活用して連絡を取り合うケースもある。家族からは手紙や年賀状も届いている。墓参りや行きつけの店に行きたいという希望を叶えた事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方の隣に席をセッティングしたり、職員が中に入ったりして、円滑にコミュニケーションが取れるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を頂いたりし、関係を大切にしている。相談があった場合は出来る限りの支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望は聞いており、把握に努めている。コミュニケーションがとりづらい方や、困難な方は、表情の変化や、動きなどを見てサインを見逃さないように努めている。	介護度の高い利用者には、表情から意思を汲み取るよう努め、こまめに声掛けしている。就寝時間は強制せず、大晦日には、遅くまでテレビを観ている利用者もいる。生活歴やふと口にした言葉を個人記録や業務日誌に記録し、職員間で共有を図っている。ただし、日常的に時間が経過した記録を確認できる状態とは言えない。	利用者がその人らしい暮らしを送ることができるよう職員全員が、一人ひとりの思いを把握することが重要である。時間が経過しても、利用者の思いを確認できるよう工夫・検討に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にも聞き取りを行っているが、入居後も聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックにて体調の変化、表情や顔色、動きの観察でのチェックを行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やかかりつけ医へ意見を聞き、現状に即した計画作成をしている。	入居時には、以前利用していた施設からの情報を取得する他、本人・家族と面談しホームでの暮らしについての意向、現在困っていることを基に介護計画を作成している。体調に変化があった際は、その都度情報交換を行い、半年ごとのモニタリング会議を経て、計画作成へ繋げている。ただし、介護計画と実践との連動がわかりづらい。	利用者一人ひとりの介護計画を職員全員が共有し、毎日実践の有無を確認できる仕組みづくりが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や、全体の日をまとめた記録を作成し、職員間で共用し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況により、医療でのデイケア利用の支援や、ご家族との意見や相談は都度話しており、多機能化に取り組みを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアで、歌や踊りなどの方に来て頂いたりしていたが、現在受け入れることが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本入所前のかかりつけ医を変更していないが、かかりつけ医がいない場合など、複数に病院を紹介し、ご家族の方に選んでいただきご家族希望の医療支援に努めている。	利用者個別のかかりつけ医を尊重しており、日頃の受診は職員が対応している。ホームの協力医は、24時間往診が可能である。利用者の急な体調の変化があった際は、すぐに家族へ連絡している。医療機関受診の結果や日常の体調は、便りに記載したり、家族の来訪時に直接伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない為、個々のかかりつけ医に都度相談し、適切な医療や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ早く退院できるように病院との情報交換を行い、面会が出来る時には出来るだけ面会をし、入院での混乱を軽減できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っておらず、個々の状況を見ながらご家族へ相談し、次への対応が出来るように努めている。	入居時に重度化した場合の対応について説明している。医療行為を伴う看取り支援は行っていないが、老衰による看取りは、過去2例ある。ホームの協力医は、24時間受診可能である。看取り支援は、家族の付き添い等協力体制が不可欠となるため、家族と相談の上重度化の際の方針を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っているが、定期的ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練は夜間対応で行っており、地域の方へも声掛けを行っている。	ホームは川沿いに立地し、洪水対象地域となっている。そのため行政と相談の上、避難確保計画を作成している。災害時には垂直避難を想定し、備蓄確保、情報収集、伝達手段等のマニュアルを整備している。管理者は消防団員であり、具体的な指導の下に避難訓練を行っている。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、笑顔で生活できるような言葉かけをしている。	利用者に対する呼び方は、苗字にさん付けを原則としている。また職員は、利用者には優しく声掛けするよう心掛けており、本人の人格を尊重する支援に努めている。入浴時の着替えの際には、羞恥心に配慮している。ホームでは、利用者の写真を会議や研修で使用するについて、家族から個人情報利用同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	動きや表情をみながら、発言を促したり、言葉かけをし自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースでリビングや居室で過ごして頂き、体調を観察しながら食事やおやつ、の時間をずらしたり、入浴の時間等も考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでいただいたり、お化粧や整髪のお手伝いをしたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や量など考慮し、入居者様からのリクエストの食事を作ったり、野菜の皮むきや食器拭き等職員と一緒に作業している。	食事は、職員の手作りである。入居時に嗜好調査を行い、メニューによって代替食を提供している。きざみ、ミキサー、とろみ食に対応しており、パンや洋食の希望も反映している。正月、敬老会、クリスマス、誕生日会等の行事食は工夫を凝らしていることが確認できる。利用者も下ごしらえを手伝い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態、水分補給も回数を増やし、色々な種類の飲料で一日の水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に口腔ケアの誘導、見守り、支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は個々の排泄パターンにてトイレ誘導、声掛けをし排泄介助を行っている。夜間帯は時間でのトイレ誘導や、ベッドサイドでのポータブルトイレにて排泄介助を行っている。	トイレは、車椅子も入ることができる十分な広さがある。排泄チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して職員が誘導している。夜間は、ポータブルトイレを使用しているケースもある。職員は、パッドの厚みをできる限り薄くできないか常に話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はチェックし、便秘の方は内服薬などでの排便コントロールや、水分摂取や運動、腹部マッサージを行っており、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前午後の入浴となるが、入浴の順番や、午前希望、午後希望など意見を取り組み支援している。	週3回入浴を支援している。浴室は、職員が介助に入っても十分な広さがあり、介護度の高い人も浴槽に浸ることができる。体調が悪い際は、清拭で対応している。また、同性介助の希望に添っている他、湯の温度は一人ひとりの好みに設定しており、本人が入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や、その時の希望に応じて休息して頂いており、夜間帯もそれぞれの就寝時間に合わせて居室への誘導し気持ちよく眠れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更や追加等あった場合は記載し全員確認できるようにしている。用法や用量、副作用などは内容の記載している用紙を確認している。内服時も、2人でチェックして内服して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体レクリエーション以外に、個々の好きな作業やレクリエーションの実施や、ご家族と相談させて頂き、ヤクルトを購入して頂いたり、好きなおやつ等の提供をし、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩等は希望によって支援できているが、その他の希望の場所にはコロナ感染防止の為支援できていない。	新型コロナ禍以前は、毎月外出支援を行い、大型商業施設のフードコート等へ出掛けていた。現在は、ホームの周辺を散歩したり、近所のコンビニエンスストアへ出掛けている。正月には、近隣の神社に初詣したり、桜の季節には花見も行っており、季節感を大切にしていることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていないが、買い物をしたい場合などは立て替えにて買い物が出来るように支援している。入居者様でお小遣いを持たれている方はお買い物出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度管理は職員が行い、笑顔で穏やかに過ごせるように配慮している。季節の行事や壁紙の模様替えを入居者様と一緒に作業して作って飾り心地よく過ごせる工夫をしている。	LDK一体型の共用空間は、利用者が職員と一緒に食事の支度等を行ったり、調理中の音や香りを感じることができ家庭的な雰囲気である。リビングの壁には、季節を感じるインテリアや利用者の作品を飾っている。トイレや浴室は、職員による清掃が行き届き臭気もなく、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で気の合った入居者様同士で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ自宅で利用していたタンスや布団等、見慣れたものを持ってきていただき、居室でも安心して心地よく過ごせるように工夫している。	入居時には、自宅で使い慣れた家具の持ち込み、本人の介護度や好みに応じた居室づくりに配慮している。長く入居している利用者の居室は、あたかも自宅のような設えで、居心地のいい空間となっている。職員による清掃、換気、温度調整で快適な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札の代わりに名前を貼ったり、トイレの張り紙をしたりして、自立した生活が送れるように工夫している。		